

動物の水頭症

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

はじめに

水頭症とは、何らかの原因によって頭蓋骨内、特に脳に脳脊髄液が過剰に貯留することによって脳圧が上昇し、意識レベルの低下、認知機能の低下、てんかん発作、視覚障害、巡回運動などの症状が出る病気のことで、

原因

水頭症の原因は、主に先天的なものや後天的なものに分類されます。先天的なものは、

発症

チワワ、トイプードル、ボメラニアン、マルチーズ、ヨークシャーテリア、ポメラニアンなどの小型犬

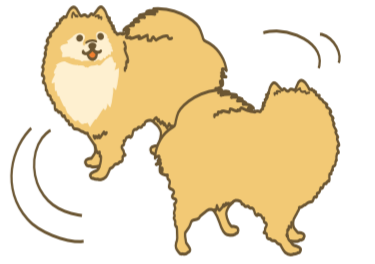
先天的な水頭症の発症が多い犬種



42

水頭症の症状

- ・頭が大きく膨らむ
- ・両目が外を向いている
- ・成長が遅い
- ・常にぼーっとしている
- ・パニックのように騒ぐ
- ・しつけがうまくいかない
- ・目が見えていない
- ・同じ所をくるくる回る
- ・ふらつく
- ・けいれんが起きる など



診断

▽前述の犬種と年齢
▽外観や症状▽神経学的検査▽頭部のレントゲン検査▽脳門が開いている場合は、超音波検査(脳スキャン)で確定診断ができます▽血液検査などによる、ほかの類似した症状を示す病気の除外▽MRI検査▽脳脊髄液検査から診断をつけます。

症状

まずは見た目に大きな頭(特におこげ)が出ているのが特徴的です。

脳脊髄液が過剰にたまり脳を圧迫 小型犬に先天的に多く発生

治療

水頭症の治療の基本は手術です。脳脊髄液が溜まっている脳室を

予後

水頭症の予後は、重症度と治療の方法によって左右され、一概にはいえません。中々重症で手術が適応され、脳圧が常に正常に保たれていれば予後は良好といえます。軽度で薬だけでうまくコントロールできる場合もあります。超重症で治療ができない、あるいは効果がない場合は、てんかん発作が止まらなくなったり、

内科的治療では、脳圧を下げる薬、脳脊髄液の吸収を調節する薬、発作を止める薬などを組み合わせて使用します。

治療法が外科でも内科でも、早期に診断し早期に治療を開始することが極めて重要になります。疑わしければかかりつけの動物病院に行つて検査し、必要であれば二次診療施設を紹介してもらうことで精密検査を受けるようにしてください。避妊、去勢手術まで何も検査されず、それどころかそのような病気にいつの間にかかっている、全身麻酔をかけられてしまつては絶対に避けなければなりません。

【次回は12月16日(掲載予定)】

このコーナーへのご意見、ご感想をお寄せ下さい！
ご意見、ご感想、岡谷動物病院の佐々木先生に聞いてみたいことなどをお寄せ下さい。住所、名前、電話番号を明記し、郵送(〒394-0028岡谷市本町3の8の30)、ファクス(0266-22-4444)、Eメール(mail@shimin.co.jp)のいずれかで、市民新聞グループ編集局「見る」係へお送りください。
バックナンバーは岡谷動物病院ホームページでご覧いただけます。